

ハザードマップの作成状況【市事業】



(H22.2月作成)

全ての自然災害、全ての居住地に対応しています。

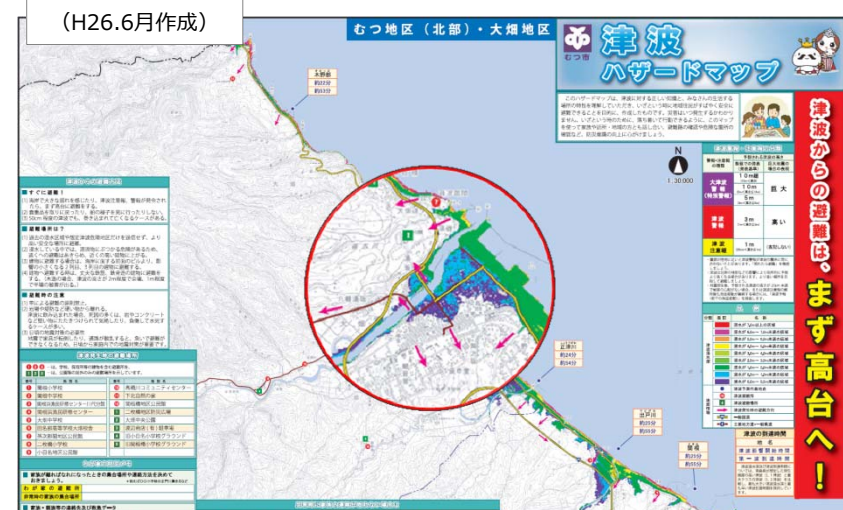
地震 一瞬の判断があなたの命を左右します！

地震に備えておくべき事
地震に備えて、「落下・転倒防止対策」、「火災防止対策」、「身の安全対策」を行うために、家中の安全チェックを実施しましょう。

- ガラスには飛散防止フィルムを貼ります。
- 家電電灯はチェーンなどを用いて落下を防止しましょう。
- 家具はしずこやツツパリなどで固定しましょう。家財の上に、重いものや壊れやすいものは置かないようにしましょう。
- 二段階式の家具はつねに扉を金具でしっかり連結しておきましょう。
- 家具と壁や柱の間にすきまができないように、板などを家具の下に差し込んで固定しましょう。
- 冷蔵庫は倒れないように金具などを固定しましょう。
- ストーブは自動消火付のものを選び、燃えやすいものを置かないようにしましょう。
- テレビは飛び出さないように免震シートやストッパー（専用ハンマー）を貼ります。

全ての自然災害に対する日頃から備えや災害時の注意事項等について掲載しています。

航空写真付きで地図な苦手な方でも居住地域が把握しやすくしています。



防災ハザードマップ（H22.2月作成）にも津波マップを掲載していましたが、東北太平洋地震による大規模津波を踏まえ、県がH25.1.29に公表した津波浸水予測図を基に改めて作成したものです。

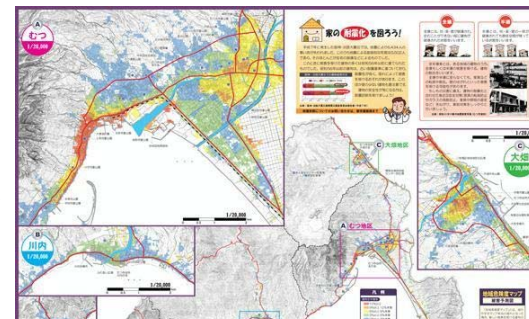
この津波ハザードマップでは、津波浸水区域及び津波到達時間等をはじめ、防災公共での検討結果を反映させ、津波に対応する避難所・避難場所を掲載するとともに、避難方向を矢印で示しています。



(H22.11月作成)



揺れやすさマップは、一目で分かるように居住地域の揺れやすさを震度階級（例：震度6弱は黄色）に応じた色で区分しています。

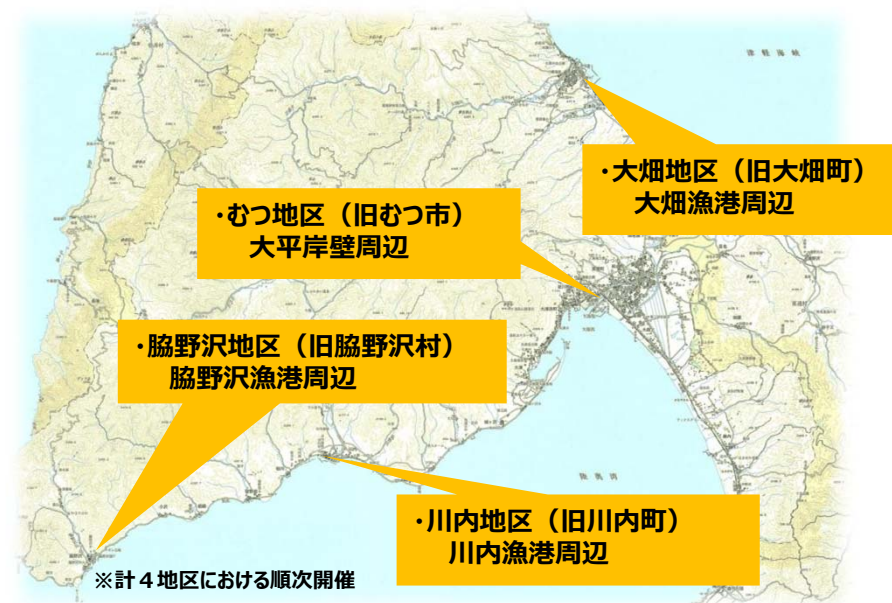


地域危険度マップは、地域内における地震に対する周辺建築物の倒壊のしやすさ（全半壊率）などを色で区分しています。

総合防災訓練の概要【市事業】

青森県 むつ市 総務政策部 防災政策課

平成17年度の市町村合併（1市3町村）を契機に、「自助」、「共助」、「公助」が連動した**広域連携の視点**がより重要となったことから、地域住民の他、消防、自衛隊、警察等の防災機関及び日本赤十字社むつ支部やトラック協会の各種団体の協力のもとに「**総合防災訓練**」を実施しています。
また、当市は三方を海で囲まれており、大規模災害により下北半島が孤立したことを想定した**海路避難訓練**や**海中漂流者捜索・救助訓練**等を取り入れていることから、各地区ともに港湾や漁港をメイン会場としています。



孤立集落への緊急物資輸送訓練



避難所開設・運営訓練



住民避難・誘導訓練



炊き出し訓練



海路避難訓練



海中漂流者捜索・救助訓練



住民初動対応訓練（初期消火）



連絡調整所運営訓練（各防災機関）

自主防災組織の現状及び活動状況【市事業】

青森県 むつ市 総務政策部 防災政策課

自主防災組織の現状

- 組織数 = 全160町内会中、8町内会（世帯カバー率 H27.1.1 **現在8%**）
- ・むつ地区（104町内会中7町内会）：奥内、中野沢、桜木町、大湊新町、角違、大湊上町、川守町
 - ・川内地区（24町内会中→未設立）
 - ・大畑地区（19町内会中→未設立）
 - ・脇野沢地区（14町内会中1町内会）：清水町



自主防災組織設立促進のため、**資機材の現物給付を平成24年度から実施**していますが、制度の周知が十分に行き届いていないと考えられるため、引き続き広報誌（毎月発行、毎戸配布）及びホームページへの掲載、町内会への直接説明等を継続することで組織率の向上に努めています。

むつ市自主防災組織防災対策資機材等給付（H24年度から実施）

設立時に限り、ヘルメット、スコップ、担架、救急セット、投光器、ラジオ、トランシーバー、ベスト、ジャンパー、テント、リヤカーなどの防災対策資機材を町内会の加入世帯数に応じて現物支給。

加入世帯区分による支給額

50世帯未満	10万円以内
50世帯以上200世帯未満	20万円以内
200世帯以上	30万円以内



収束型テント



スタッフジャンパー



担架



折りたたみ式リヤカー



地元小学生との合同炊き出し訓練



避難訓練



消防団と連携した消火訓練

スマートフォン向けアプリ「災害時ナビ」の概要【市事業】

青森県 むつ市 総務政策部 防災政策課

スマートフォン向けアプリ「災害時ナビ」の特徴

- ①「現在地周辺の避難所等を地図上に表示」及び「目的の避難所等までの道順（距離、所要時間）を案内」
- ②「カメラ機能により実際の風景画面に避難所や自宅の方向を夜間でも表示」
- ③市が発信する防災情報をリアルタイムに通知
- ④「災害時ノウハウ集」による役立ち情報の共有
- ⑤安否情報の登録・確認

スマートフォン向けアプリケーションである「災害時ナビ（※）」を新たな情報提供サービス向上策の一つとして活用します。
（サービス開始：平成27年4月～）⇒（広報紙及びホームページに掲載）

※）三井住友海上火災保険(株)及びファーストメディア(株)との情報提供協定（H27.2.13）により運営

表示画面例（避難場所案内）



現在地からの道順及び所要時間、距離を案内します。

GPS機能により周辺の避難所及び避難場所をはじめ、津波に対応する避難施設、給水拠点、医療機関等も地図上に表示されます。

「災害時ナビ」トップ画面



ボタンをタップ

ボタンをタップ

表示画面例（カメラ機能による案内）



カメラ機能（AR機能）を使用し、実際の風景画面に避難所や自宅の方向を夜間でも表示することができます。